



インストールマニュアル(参考資料)

AdRem NetCrunch 15

NetCrunch は AdRem Software が開発し所有する監視ソフトウェアである。
株式会社情報工房は日本における総販売代理店である。

©2025 Johokobo, Inc.

[20250221]

1. NetCrunch 15 – プログラム説明	4
1.1 プログラムエディション	4
1.2 プログラム構成	4
AdRem NetCrunch サーバー	4
AdRem NetCrunch コンソール	4
AdRem NetCrunch コネクションブローカー	4
監視プローブ	5
1.3 インストーラー構成	5
NC15ServerJP.exe	5
NC15ConsoleJP.msi	5
NC15MonitoringProbe.exe	5
NC15GrafCrunch.exe	6
NC15MIBDatabase.exe	6
1.4 ライセンス構成	6
2. AdRem NetCrunch 15 – 必要システム要件	10
2.1 NetCrunch 15 サーバー	10
2.2 NetCrunch 15 サーバーのサポート OS	10
2.3 NetCrunch 15 コンソール	10
2.4 NetCrunch 15 コンソールのサポート OS	11
2.5 NetCrunch 15 Web アクセス	11
2.6 NetCrunch 15 監視プローブのサポート OS	11
3. AdRem NetCrunch 15 のインストール	12
3.1 イントロダクション	12
3.2 インストールファイルのダウンロード	12
3.3 NetCrunch サーバープログラムのインストール	12
3.4 NetCrunch コンソールプログラムのインストール	13
3.5 NetCrunch 監視プローブのインストール	13
3.6 NetCrunch GrafCrunch のインストール	14
3.7 MIB Database Sources のインストール	14
4. ライセンスについて	15
4.1 ライセンスのインストール	15
4.2 ライセンスの非アクティブ化	15
4.3 ライセンスの更新	16
5. AdRem NetCrunch 14 から 15 へのアップグレード	17
5.1 イントロダクション	17
5.2 アップグレードの手順	18
5.3 NetCrunch 15 データ引継ぎ項目	20
6. AdRem NetCrunch 13 から 15 へのアップグレード	22

6.1	イントロダクション	22
6.2	アップグレードの手順	23
6.3	NetCrunch 15 データ引き継ぎ項目	25
7.	AdRem NetCrunch 12 から 15 へのアップグレード	27
7.1	イントロダクション	27
7.2	アップグレードの手順	28
7.3	NetCrunch 15 データ引き継ぎ項目	29
8.	AdRem NetCrunch 11 から 15 へのアップグレード	32
8.1	イントロダクション	32
8.2	アップグレードの手順	33
8.3	NetCrunch 15 データ引き継ぎ項目	34
9.	AdRem NetCrunch 15 のマイナーバージョンアップ	37
9.1	イントロダクション	37
9.2	マイナーバージョンアップの手順	37
10.	その他	39
10.1	仮想マシン上へのインストールの注意	39
10.2	Admin のパスワードのリセット	39
10.3	評価版について	40
10.4	AdRem NetCrunch 15 の手動操作によるフルバックアップファイルの取得方法	40
10.5	AdRem NetCrunch 14 の手動操作によるフルバックアップファイルの取得方法	40
10.6	AdRem NetCrunch 13 の手動操作によるフルバックアップファイルの取得方法	41
10.7	AdRem NetCrunch 12 の手動操作によるフルバックアップファイルの取得方法	41
10.8	AdRem NetCrunch 11 の手動操作によるフルバックアップファイルの取得方法	41
11.	AdRem Software 使用許諾	43

1. NetCrunch 15 – プログラム説明

1.1 プログラムエディション

本資料では、AdRem NetCrunch バージョン 15.1.1.7657 日本語版(以下 15)について記載しております。

1.2 プログラム構成

AdRem NetCrunch 15 は次のプログラムコンポーネントによって構成されております。

AdRem NetCrunch サーバー

ネットワーク監視の機能を提供します。AdRem NetCrunch コンソール、AdRem NetCrunch Web サーバー、AdRem NetCrunch コネクションブローカーと作成されたネットワークアトラスの全てのデータを保存するデータベースを含みます。このコンポーネントは、Windows オペレーティングシステム(詳細はシステム要件をご参照ください)が動作しているマシン上にインストールすることができます。

NetCrunch サーバーはリモートから Web アクセス(Web ブラウザ経由でのアクセス)、または NetCrunch コンソールを用いて接続することができます。接続には、NetCrunch サーバーに設定されている各ユーザーの資格情報を使用して接続します。

AdRem NetCrunch コンソール

ネットワーク監視に関係する全てのタスクを管理するためのグラフィカル・ユーザー・インターフェースを提供します。NetCrunch コンソールと NetCrunch コネクションブローカーは NetCrunch サーバーコンポーネントから分割されたインストーラーが提供されます。そのため、Windows オペレーティングシステムが動作している複数のマシン上に NetCrunch コンソールをインストールすることができます。また、ユーザーがライセンスを複数購入している場合、複数の Windows サーバーに NetCrunch サーバーをインストールすることができ、1 台のコンソールから複数の NetCrunch サーバーに接続することができます。この場合、それぞれの NetCrunch サーバーからのイベント通知受信を独立して接続することができます。NetCrunch サーバーと NetCrunch コンソールの間の接続には NetCrunch コネクションブローカーが使用されます。

AdRem NetCrunch コネクションブローカー

NetCrunch サーバーと NetCrunch コンソールとの間に接続を確立します。NetCrunch コネクションブローカーは、NetCrunch コンソールのインストールとともにインストールされます。NetCrunch コネクションブローカーは次のタスクを提供します。

- NetCrunch サーバーの認証情報を確認することで、NetCrunch サーバーと NetCrunch コンソールとの間に接続を確立します。
- 接続している全ての NetCrunch サーバーからのデスクトップ通知ウィンドウの表示を NetCrunch コンソールが動作しているマシン上に表示します。
- NetCrunch サーバーと資格情報のリストを管理します。

監視プローブ

デスクトップの Windows マシンにインストール可能なエージェントソフトウェアです。監視プローブを Windows マシンにインストールし、NetCrunch サーバーを指定することで、NetCrunch サーバーに監視プローブが追加されます。NetCrunch サーバーにノードを追加する際、監視プローブを指定することで、監視プローブをインストールしたマシンから監視対象へのネットワークサービスの監視が可能です。

付属している監視プローブ数で足りない場合、別途追加する必要があります。

1.3 インストーラー構成

AdRem NetCrunch 15 は、次のインストーラーで構成されています。

NC15ServerJP.exe

AdRem NetCrunch サーバーをサーバーマシンにインストールします。NC15ServerJP.exe には、コンソール、コネクションブローカーが含まれます。サーバーマシン上でユーザインターフェースを利用する場合は、このインストーラーのみで全ての機能をインストール可能です。

NC15ConsoleJP.msi

コンソール、コネクションブローカーをリモートマシンにインストールします。他のサーバーマシンにインストールされた任意の NetCrunch サーバーに接続し、グラフィカルユーザインターフェースによる管理機能を使用することができます。コンソール、コネクションブローカーには監視機能自体は提供されないため、必ず NetCrunch サーバーがインストールされたサーバーマシンに接続して使用します。

なお、NC15ServerJP.exe をインストールしたサーバーマシンには、NC15ConsoleJP.msi のインストールは不要です。

NC15MonitoringProbe.exe

監視プローブをデスクトップの Windows マシンにインストールします。他のサーバーマシンにインストールされた任意の NetCrunch サーバーに接続し、NetCrunch サーバーから指定されたノードへのネットワークサービスの監視を行います。

なお、NC15ServerJP.exe をインストールしたサーバーマシンには、NC15MonitoringProbe.exe のインストールは不要です。また、NetCrunch 日本語版と連携することはできますが、監視プローブは英語版のみとなっておりますので、あらかじめご了承ください。

NC15GrafCrunch.exe

GrafCrunch は、ライブパフォーマンスダッシュボードを作成するツールとなり、様々なソースからデータを表示できます。GrafCrunch を使用することで複数の NetCrunch サーバーやそのほかのソースからダッシュボードを作成できます。

NC15MIBDatabase.exe

MIB Database Sources には NetCrunch サーバーにコンパイル済みでそのままご利用いただける MIB 定義に対する MIB のソースコードが含まれています。

この MIB 定義の編集・再コンパイルやプライベート MIB のコンパイル時にこれらの内容を参照するような場合にインストールが必要となる外部コンポーネントとなります。

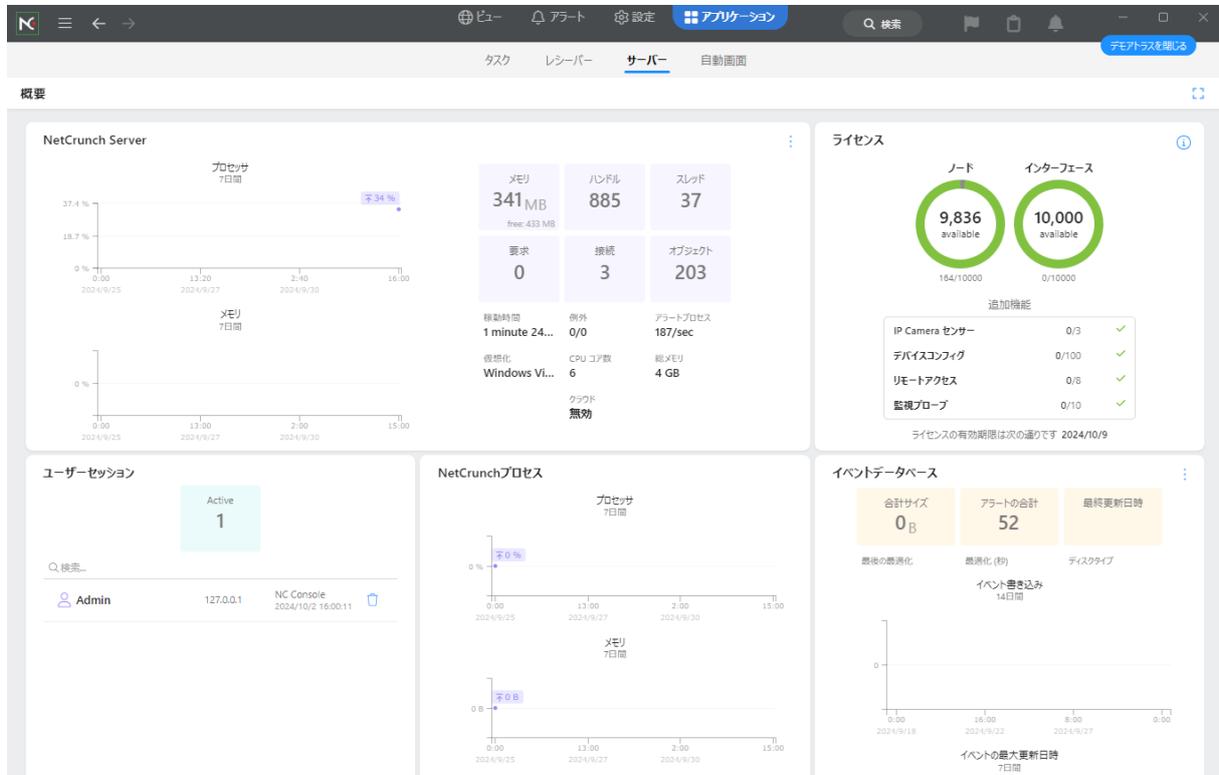
1.4 ライセンス構成

NetCrunch 15 は、エンタープライズ、スイート、レガシーという本体ライセンスがあります。スイート、レガシーに関しては、旧バージョンをご購入いただいているユーザー向けのライセンスです。新規にライセンスをご購入いただく場合は、エンタープライズをご購入いただく必要がございます。また、本体ライセンスのほかに、リモートアクセスと監視プローブなどのオプションライセンスがございます。

エンタープライズ及びスイートのライセンス数に関しては、ノード数またはインターフェース数のどちらか数の多い方に依存いたします。ノード数は、アトラスに登録されている IP ノード、リモートセンサーノード、ビジネスステータスノード、ノード監視テンプレート、監視プローブの総数が対象となります。インターフェース数については、SNMP で ifAdminStatus (デフォルトでは、loopback を除く) の値となります。

ご購入いただいたライセンスのノード/インターフェース数を超過して監視することはできませんのでご注意ください。ライセンスの購入前に、評価版にてノード数、インターフェース数をご確認いただくことを推奨しております。[アプリケーション]タブ→[サーバー]タブにて、ノード数、インターフェース数、推奨するライセンスをご確認いただけます。

AdRem NetCrunch 15 のインストール



エンタープライズ

エンタープライズは、NetCrunch の全機能をご利用いただけるライセンスです。リモートアクセス (10 ユーザー)、監視プローブ (1 セッション)、コンフィグセンサー (100 コンフィグ)、クラウドセンサー (10 クラウド)、IP Camera センサー (3 センサー) が付属しています。

スイート

スイートは、旧バージョンをご利用のユーザー向けに発行されるライセンスです。リモートアクセス (10 ユーザー) と、監視プローブ (1 セッション)、クラウドセンサー (1 クラウド)、IP Camera センサー (3 センサー) が付属しています。スイートでは、一部機能制限がございます。

レガシー

レガシーは、旧バージョンをご利用のユーザー向けに発行されるライセンスです。リモートアクセス (1 ユーザー) が付属しています。レガシーには、Premium と Premium XE の 2 種類のライセンスがございます。レガシーでは、一部機能制限がございます。また、今後追加される新機能についても、レガシーでは実装されない予定となっております。

■使用不可機能(バージョン 15.1 時点)

Premium XE	Premium
<ul style="list-style-type: none"> ・アクティビティログ ・イベントログの分析 ・監視テンプレート ・監視プローブ ・クラウドサービス ・組織グループ ・デバイスコンフィグセンサー ・統合での Webhook ・ノード追加パッケージ ・複合ステータス ・レシーバーノード ・AD ユーザーを NC ユーザーに登録 ・AD Replication センサー ・Camera センサー ・Cisco CBQoS センサー ・Dell EMC ・DELL iDRAC IPMI ・DICOM C-Echo ・Docker Container ・HP iLO IPMI ・HPE 3PAR StoreServ ・IBM IMM IPMI ・ICMP Jitter ・iNodes ・IPMI Log ・LDAP Authentication センサー ・NetApp SANtricity ・NetAPP ONTAP ・NetCrunch Connection Cloud ・Oracle Table Space センサー ・Palo Alto Firewall ・Pending Reboot ・Remote SSH Script ・Script センサー ・TACACS+ センサー ・Traceroute ・Telemetry ノード ・Veeam Backup and Replication センサー ・WBEM 関連のセンサー 	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティビティログ ・イベントログの分析 ・外部イベント(SNMPトラップの受信) ・監視テンプレート ・監視プローブ ・クラウドサービス ・組織グループ ・テキストログセンサー ・デバイスコンフィグセンサー ・統合(Slack など) ・統合での Webhook ・ノード追加パッケージ ・複合ステータス ・物理的セグメントマップの拡張 (VLAN のサポート/STP、CDP の対応) ・レシーバーノード ・AD ユーザーを NC ユーザーに登録 ・AD Replication センサー ・Camera センサー ・Cisco CBQoS センサー ・Dell EMC ・DELL iDRAC IPMI ・DICOM C-Echo ・Docker Container ・HP iLO IPMI ・HPE 3PAR StoreServ ・IBM IMM IPMI ・ICMP Jitter ・iNodes ・IPMI Log ・IP SLA 監視 ・LDAP Authentication センサー ・NetApp SANtricity ・NetAPP ONTAP ・NetCrunch Connection Cloud ・Oracle Table Space センサー ・Palo Alto Firewall ・Pending Reboot ・Remote SSH Script

■使用不可機能(バージョン 15.1 時点)

Premium XE	Premium
<ul style="list-style-type: none"> ・WMI Battery センサー 	<ul style="list-style-type: none"> ・Script センサー ・TACACS+ センサー ・Traceroute ・Telemetry ノード ・Veeam Backup and Replication センサー ・WBEM 関連のセンサー ・WMI Battery センサー

スイート

- ・アクティビティログ
- ・監視プローブを使用した複数サイトの監視
(オプションの購入が必要)
- ・デバイスコンフィグセンサー
(オプションの購入が必要)

なお、エンタープライズ、(NetCrunch 15 の評価版を含む)にてアトラスを作成したのち、NetCrunch にスイート、レガシーライセンスを適用した場合、上記の使用不可機能がご利用いただけなくなりますのでご注意ください。

リモートアクセス

Web アクセス、リモートマシン上のコンソール、GrafCrunch の使用により、ライセンスを消費します。エンタープライズ、スイートには 10 セッション付属しており、オプションライセンスをご購入いただくことで、より多くのセッションをご利用いただけます。

監視プローブ

エンタープライズ、スイートには監視プローブを 1 セッション付属しており、オプションライセンスをご購入いただくことで、より多くのセッションをご利用いただけます。

2. AdRem NetCrunch 15 – 必要システム要件

2.1 NetCrunch 15 サーバー

最小システム要件	推奨システム要件
CPU	
4 コア	8 コア以上
メモリ	
4GB	8GB 以上 ※50 万カウンタ以上の場合追加で 4GB 以上
HDD	
10GB 以上の HDD ドライブ ※1	40 GB 以上の SSD ドライブ ※1
OS	
Windows 2016	Windows 2019

※1 NetCrunch 単体でインストールいただく際に最小限必要なディスクサイズとなります。
バックアップファイルの保存サイズは含まれておりません。

2.2 NetCrunch 15 サーバーのサポート OS

- Windows Server 2016
- Windows Server 2019
- Windows Server 2022
- Windows Server 2025

2.3 NetCrunch 15 コンソール

最小システム要件
メモリ
4GB
ディスプレイ
24 ビットカラー
フル HD 解像度または複数のモニター

2.4 NetCrunch 15 コンソールのサポート OS

- Windows 10
- Windows 11

2.5 NetCrunch 15 Web アクセス

最小システム要件

ウェブブラウザ

Firefox 86 以降、Chrome 86 以降、Microsoft Edge 86 以降、Opera、Safari 15.4 以降

その他

HTML 5

2.6 NetCrunch 15 監視プローブのサポート OS

- Windows Server 2016
- Windows Server 2019
- Windows Server 2022
- Windows Server 2025
- Windows 10
- Windows 11

3. AdRem NetCrunch 15 のインストール

3.1 イントロダクション

AdRem NetCrunch サーバーは管理者コンピュータごとにライセンスを必要とします。つまり、1つのライセンスは1つのコンピュータのみにインストールすることができます。同一のライセンスを2つ以上のコンピュータにインストールすることはできません。

3.2 インストールファイルのダウンロード

バージョンアップのお客様および製品パッケージ版の CD-ROM を利用しない場合は、カスタマーポータルからプログラムの最新インストールファイルのダウンロードを行います。

1. カスタマーポータルにログインし、[ダウンロード]タブを表示します。
2. 保存先パスにローカルマシンのドライブ・フォルダを指定します。[Program Language Version]に[Japanese]を選択し、NetCrunch Server などのプログラムの [Download]をクリックします。

3.3 NetCrunch サーバープログラムのインストール

NetCrunch サーバープログラムのインストール手順:

1. NetCrunch サーバーのインストールには、ローカルディスクに保存したインストールファイル (NC15ServerJP.exe) を右クリック→[管理者として実行]を選択し、インストールウィザードに従って行います。インストールウィザードを起動し、[次へ]をクリックします。
2. 使用許諾契約が表示されますので、お読みの上 [使用許諾契約の条項のすべての条項に同意します] にチェックし、[次へ]をクリックします。
3. プログラムのインストール先フォルダを指定し、[次へ]をクリックします。
4. データ保管フォルダを指定し、[次へ]をクリックします。

注意:

プログラムインストールフォルダとデータ保管フォルダは、別のフォルダを指定することを推奨しております。同じフォルダを指定した場合、NetCrunch 15 のメジャー/マイナーバージョンアップを含むアンインストール時にデータ保管フォルダもプログラムインストールフォルダと共に削除されます。

5. NetCrunch の Admin ユーザーのパスワードの設定をします。[パスワード]、[パスワードの確認]で8文字以上のパスワードを設定の上、[次へ]をクリックします。
6. Web サーバーの設定を行います。Web アクセスを利用時のアクセスポートと OpenSSL の使用について設定します。ポートとオプションを設定の上、[次へ]をクリックします。
7. [インストール]をクリックし、インストールを開始します。
8. インストール完了後、NetCrunch コンソールをすぐに実行する場合は、[コンソールの起動]をチェックします。[完了]をクリックすると、ウィザードを終了します。

3.4 NetCrunch コンソールプログラムのインストール

コンソールのインストール手順:

1. コンソールのインストールを行います。ダウンロードしたインストールファイル (NC15ConsoleJP.msi) を右クリック→[インストール]を選択します。インストールウィザードを起動し、[次へ]をクリックします。
2. 使用許諾契約が表示されますので、お読みの上、[使用許諾契約の条項のすべての条項に同意します] をチェックし、[次へ]をクリックします。
3. インストール先を指定し、[次へ]をクリックします。
4. [インストール]をクリックします。
5. インストール完了後、コンソールをすぐに実行する場合は[コンソールの起動]をチェックし、[完了]をクリックします。
6. コンソールを起動して必要項目を入力し、[OK]をクリックします。
7. NetCrunch の構成が正確である場合、NetCrunch コネクションブローカーは自動的に NetCrunch と接続し、プログラムから通知の受信が始まります。また、コンソールが開きます。

3.5 NetCrunch 監視プローブのインストール

監視プローブのインストール手順:

1. プローブのインストールを行います。ダウンロードしたインストールファイル (NC15MonitoringProbe.exe) を右クリック→[管理者として実行]を選択します。
2. 使用許諾契約が表示されますので、お読みの上、[I accept the agreement]をチェックし、[Next]をクリックします。
3. [Install]をクリックします。
4. インストール完了後、設定画面を表示する場合は、[Launch Configurator]をチェックし、[Finish]をクリックします。
5. [NetCrunch Monitoring Probe Configuration] ウィンドウにて、接続方法、NetCrunch サーバーの IP アドレスやポートを指定の上、[Connect]をクリックします。
6. [Username]と[Password]に NetCrunch の認証情報を指定の上、[Login]をクリックします。
7. [Probe Name]に任意の名前を入力し、[Register]をクリックします。
※対象の NetCrunch サーバーに既に監視プローブが存在している場合は、既存のものを選択することもできます。
8. [Close]をクリックします。

監視プローブのインストール後は、インストール先フォルダ (C:\Program Files\AdRem\NetCrunch\Monitoring Probe\15.x.x) にある「NcMonitoringProbeConfig.exe」を起動することで、NetCrunch サーバーを指定できます。

3.6 NetCrunch GrafCrunch のインストール

GrafCrunch のインストール手順:

1. GrafCrunch のインストールを行います。ダウンロードしたインストールファイル (NC15MonitoringProbe.exe) を右クリック→[管理者として実行]を選択します。
2. 使用許諾契約が表示されますので、お読みの上、[I accept the agreement]をチェックし、[Next]をクリックします。
3. インストール先を指定し、[Next]をクリックします。
4. GrafCrunch サーバーのドメイン、ポート番号を指定し、[Next]をクリックします。
5. NetCrunch サーバーの IP アドレス、Web アクセスポート、OpenSSL の使用、ユーザー名、パスワードを指定し、[Next]をクリックします。
6. ショートカットキー、名称を指定し、[Next]をクリックします。
7. 指定した内容を確認の上、[Install]をクリックします。
8. GrafCrunch のアクセス用 URL 及びユーザー名とパスワードを確認の上、[Next]をクリックします。
9. “GrafCrunch”、“GrafCrunch Getting started”にチェックを入れ、[Finish]をクリックします。
※[Finish]をクリック後、既定ブラウザにて GrafCrunch の Web コンソールが開かれます。

3.7 MIB Database Sources のインストール

MIB Database Sources のインストール手順:

1. MIB Database Sources のインストールを行います。ダウンロードしたインストールファイル (NC15MIBDatabase.exe) を右クリック→[管理者として実行]を選択します。
2. 使用許諾契約が表示されますので、お読みの上、[I accept the agreement]をチェックし、[Next]をクリックします。
3. [Install]をクリックします。
4. インストール完了後、[Finish]をクリックします。

4. ライセンスについて

4.1 ライセンスのインストール

NetCrunch をインストールしたのち、正規版として稼動するためには、ライセンスのインストールが必要です。ライセンスのインストール手順は以下になります。

オンラインでライセンスをインストールする方法:

1. NetCrunch のインストール先フォルダ内にある「NCLicenseManager.exe」を起動します。
※デフォルトインストール時のパスは以下のとおりです。
C:\Program Files\AdRem\NetCrunch\Server\15.x.x
2. [プログラムライセンスのインストール]ウィンドウにて、[オンライン]を選択します。
3. カスタマーポータル認証情報を入力し、[ログイン]をクリックします。
4. ライセンスを選択し、[有効化]をクリックします。ライセンスがインストールされると、ライセンスを適用するため、NetCrunch サーバーが再起動します。

オフラインでライセンスをインストールする方法:

1. NetCrunch のインストール先フォルダ内にある「NCLicenseManager.exe」を起動します。
※デフォルトインストール時のパスは以下のとおりです。
C:\Program Files\AdRem\NetCrunch\Server\15.x.x
2. [プログラムライセンスのインストール]ウィンドウにて、[ライセンスファイル]を選択しますと、アクティベーションキーが表示されます。
3. インターネットにアクセス可能なデバイスから、カスタマーポータルにログインします。
4. [ライセンス]タブにて対象のライセンスにある[Activate License]をクリックします。
5. [Activation Key]にアクティベーションキーを入力し、[Activate]をクリックします。
6. [ライセンスファイルをダウンロードする]をクリックします。
7. [ライセンスファイルのインストール]ウィンドウにて、[ロードする]を選択し、ダウンロードしたライセンスファイルを選択して[Load]ボタンをクリックします。ライセンスがインストールされると、ライセンスを適用するため、NetCrunch サーバーが再起動します。

4.2 ライセンスの非アクティブ化

NetCrunch サーバーをリプレイスする場合など、ライセンスの適用場所が変更となる場合には、あらかじめライセンスの非アクティブ化が必要となります。

オンラインでライセンスを非アクティブ化する方法:

1. NetCrunch のインストール先フォルダ内にある「NCLicenseManager.exe」を起動します。
※デフォルトインストール時のパスは以下のとおりです。
C:\Program Files\AdRem\NetCrunch\Server\15.x.x
2. [NetCrunch ライセンスマネージャー] ウィンドウにて、[非アクティブ化] をクリックします。
3. [オンラインで非アクティブ化] を選択します。
4. 確認画面にて [非アクティブ化] をクリックします。ライセンスの非アクティブ化のため、NetCrunch サーバーが再起動します。
5. ウィンドウを閉じます。

オフラインでライセンスを非アクティブ化する方法:

1. NetCrunch のインストール先フォルダ内にある「NCLicenseManager.exe」を起動します。
※デフォルトインストール時のパスは以下のとおりです。
C:\Program Files\AdRem\NetCrunch\Server\15.x.x
2. [NetCrunch ライセンスマネージャー] ウィンドウにて、[非アクティブ化] をクリックします。
3. [オフラインで非アクティブ化] を選択します。
4. [非アクティブ化の確認] ウィンドウにてコードが表示されますので値をメモします。
5. インターネットにアクセス可能なデバイスからカスタマーポータルにログインします。
6. [ライセンス] タブの対象のライセンスに表示されている [Deactivate] をクリックします。
7. [Deactivation Key] ウィンドウにて先にメモしたコードの値を入力し、[Deactivate] をクリックします。

ライセンスを非アクティブ化できない場合:

サーバーの故障などによってライセンスを非アクティブ化できない場合は、以下の情報を記載の上、japan@adremsoft.com までお問い合わせください。製造元での処理が必要となるため、処理が完了するまで時間がかかる場合がございます。あらかじめご了承ください。

- エンドユーザーの企業名または団体名 (英語名)
- エンドユーザーの担当者名 (英語名)
- カスタマーポータルに登録しているメールアドレス
- 非アクティブ化したいライセンスのシリアル番号
(「XXX-XXX-XXX」の形式による数字とアルファベットの組み合わせ)

シリアル番号の確認方法については、別紙『カスタマーポータル利用ガイド』をご参照ください。

4.3 ライセンスの更新

NetCrunch は、インストールしたライセンスにあわせて保守期限が適用されます。NetCrunch に適用されている保守期限は、NetCrunch のメインメニュー→「[≡] (ハンバーガーボタン)」→ [ヘルプ]→[NetCrunch について]にてご確認いただけます。

保守契約を更新していただきますと、カスタマーポータル上にあるライセンスファイルが更新されます。新しいライセンスファイルを NetCrunch に適用することで、NetCrunch に適用されている保守期限も更新されます

ライセンスの更手順は、NetCrunch のメインメニュー→「[≡] (ハンバーガーボタン)」→[ヘルプ]→[プログラムライセンスの更新]から行えます。

※ ご利用環境のライセンスをオフラインでインストールいただいている場合には、現在のライセンスをオフラインで非アクティブ化した後、改めてオフラインでカスタマーポータルのライセンスをアクティブ化したファイルをダウンロードいただきインストールしてください。その後コンソールを起動し、コンソールの左側のペイン上の[概要]タブを右クリック→ [監視有効]を選択し監視を有効化します。

注意: 非アクティブ化からダウンロードしたファイルをインストールいただき監視の有効化を行うまでの間は監視動作停止した状態となります。

5. AdRem NetCrunch 14 から 15 へのアップグレード

5.1 イントロダクション

NetCrunch 15 では、前バージョン NetCrunch 14 のデータを引き継ぐアップグレード機能が搭載されております。アップグレードについては、製造元、弊社とも十分な検証を実施しておりますが、万一の場合に備えてアップグレード実施前はバックアップデータの取得、NetCrunch 14 の設定の控えをあらかじめ準備していただきますようお願いいたします。また、アップグレード実施後には、NetCrunch 14 との設定比較を実施いただきますようお願いいたします。

※10.6 AdRem NetCrunch 13 の手動操作によるフルバックアップファイルの取得方法

NetCrunch 14 を NetCrunch 15 にアップグレードする方法(使用していたアトラスなどのデータを引き継ぐ)には、以下の2つの方法があります。

- ・ NetCrunch 14 を使用しているサーバーマシンに NetCrunch 15 をインストールしてアップグレードする方法
- ・ NetCrunch 14 のバックアップデータを NetCrunch 15 にインポートする方法

前者は、NetCrunch 14 がインストールされた状態のサーバーマシンに NetCrunch 15 をインストールする方法となります。

後者は、すでにサーバーマシンにインストール済みの NetCrunch 15 に対して、NetCrunch 14 のバックアップファイル(.ncb ファイル)をインポートする方法となります。

アップグレード、インポートそれぞれの方法で引き継ぎできる項目が異なります。また、インポートの場合、使用するバックアップファイルによっても引き継ぎできる項目が異なります。アップグレー

ド、インポートによる NetCrunch 15 へのデータの引き継ぎ項目の詳細は、表 3 データ引き継ぎインポート／アップグレード比較表に一覧を記載しています。

なお、NetCrunch 15 での変更点については、リリースノートにてご確認いただけます。

注意:

アップグレード時、再起動をうながすメッセージが表示される場合があります。メッセージが表示された場合には、サーバーの再起動をご試行ください。

注意:

アップグレードおよびインポートは、バージョン 14.2.2.7321 日本語版のみサポートしています。

注意:

NetCrunch はダウングレード機能を搭載しておりません。そのため、NetCrunch 15 をインストール後、NetCrunch 14 に戻すことはできません。

5.2 アップグレードの手順

NetCrunch サーバープログラムのアップグレードの手順:

アップグレード実施前に、NetCrunch 14 でのアトラスのバックアップファイルの取得をお願いします。

※1010.6 AdRem NetCrunch 13 の手動操作によるフルバックアップファイルの取得方法

1. 「インストールファイルのダウンロード」セクションに従い、プログラムとのファイルをダウンロードします。
2. 「ライセンスの非アクティブ化」セクションに従い、ライセンスを非アクティブ化します。
3. NetCrunch 14 を停止します。コネクションブローカーなどが起動している場合は、終了します。
4. ローカルディスクに保存したインストールファイル(NC15ServerJP.exe)を右クリック→[管理者として実行]を選択し、インストールのウィザードを開始します。
5. NetCrunch 14 がインストールされている場合は、下記の画面が表示されます。



6. NetCrunch 14 のアンインストールと、NetCrunch 14 から NetCrunch 15 へのアップグレードが行われます。[次へ]をクリックし、ウィザードに従ってインストールを開始します。

注意:

下記の 2 つのフォルダは、使用していた NetCrunch 14 と同一のフォルダをご指定ください。データ保管フォルダに異なるフォルダを指定した場合、データは引き継がれませんのでご注意ください。

- a. AdRem NetCrunch 14 のインストール先フォルダ
- b. AdRem NetCrunch 14 のデータ保管フォルダ

注意:

NetCrunch 15 のインストールが開始されると、NetCrunch 14 がアンインストールされます。途中で NetCrunch 15 のインストールをキャンセルしますと、NetCrunch がインストールされていない状態となりますのでご注意ください。

注意:

NetCrunch 15 にアップグレード後、ライセンスをインストールするまで、NetCrunch は一時的に評価版(エンタープライズ)にて稼働いたします。評価版ではエンタープライズライセンスの全機能をご利用いただけますが、ライセンスのインストール後はライセンスの持つ機能のみご利用が可能です。スイート、レガシーライセンス(Premium または Premium XE)では、一部ご利用いただけない機能がございます。ご利用いただけない機能については、「ライセンス構成」をご参照ください。

NetCrunch コンソールプログラムのアップグレードの手順:

1. 「インストールファイルのダウンロード」セクションに従い、プログラムのインストールファイルをダウンロードします。
2. 現在使用している NetCrunch コンソールを終了します。
3. タスクトレイ上から現在使用している NetCrunch コネクションブロッカーを終了します。

4. ローカルディスクに保存したインストールファイル(NC15ConsoleJP.msi)を右クリック→[管理者として実行]を選択し、インストールのウィザードを開始します。
5. ウィザードに従ってインストールを完了します。
6. コンソールを起動し、必要項目を入力し、“OK”をクリックします。

NetCrunch の構成が正確である場合、NetCrunch コネクションブローカーは自動的に NetCrunch と接続し、プログラムから通知の受信が始まります。また、コンソールが開きます。

5.3 NetCrunch 15 データ引継ぎ項目

NetCrunch 14 から NetCrunch 15 へのデータ引き継ぎインポート／アップグレードの項目を表に示します。インポートの場合、使用するバックアップファイルによって、引継ぎできる項目が異なります。バックアップファイルを、選択バックアップにて作成した場合は「選」の項目を、フルバックアップにて作成した場合は「フ」の項目をご確認ください。

表 1 データ引き継ぎインポート／アップグレード比較表

(選: インポート(選択バックアップ)、フ: インポート(フルバックアップ)、ア: アップグレード)

	項目	選	フ	ア	補足
1	mib.dat (追加コンパイルした MIB 定義)	○	○	○	-
2	MIB フィルター	×	×	○	-
3	仮想パフォーマンスカウンタ	○	○	○	-
4	監視依存関係	×	×	×	-
5	ユーザープロフィール	○	○	○	-
6	SNMP プロフィール	○	○	○	-
7	Web アクセス権	○	○	○	-
8	ノードの設定	○	○	○	-
9	マッププロパティ	○	○	○	-
10	アトラスプロパティ	○	○	○	-
11	SNMP ビュー	○	○	○	-
12	アトラスマップ (各種マップの構成)	○	○	○	-
13	マップレイアウト	○	○	○	-
14	イベント定義	○	○	○	-
15	イベントログフィルター	×	○	○	-
16	アクションの定義	○	○	○	-
17	アクション割り当て (メッセージ変換フォーマットの割り当て)	○	○	○	-

18	アラートメッセージ形式	○	○	○	-
19	レポート	○	○	○	-
20	監視データ (イベントログ、トレンドデータ)	○	○	○	選択バックアップの場合、イベントログとトレンドデータをバックアップファイルに含めるか選択できます。
21	アイコン	△	△	△	NC ノードのアイコンは引き継ぐことができません。
22	デバイスリスト	×	×	○	-
23	カスタムネットワークサービス定義	△	△	○	選択バックアップ、フルバックアップの場合、作成した定義は引き継ぐことができませんが、割り当て済みのノードからは削除されません。
24	カスタムフィールド	○	○	○	-
25	バックアップタスク	○	○	○	-
26	定義済みインターフェース監視	○	○	○	-
27	ツール／オプション関連	△	△	○	フルバックアップからのインポートの場合、以下の項目は引き継がれません： ・設定>コンフィグレーション>NetCrunch システム>接続

注意:

NetCrunch 14 を Active Directory 環境上にインストールしており、NetCrunch 14 を Active Directory アカウントにて稼働させていた場合、Windows エージェントレス監視の認証が自動で行われております。この場合、NetCrunch 15 へのアップグレード後に Windows エージェントレス監視の認証情報の入力が必要となります。

なお、デフォルトインストールの場合、NetCrunch 14 はローカルシステムアカウントにて稼働しております。また、NetCrunch 15 を Active Directory アカウントにて稼働させたい場合は、インストール後、Windows のサービス一覧にて「AdRem NetCrunch Server」のプロパティから変更できます。

6. AdRem NetCrunch 13 から 15 へのアップグレード

6.1 イントロダクション

NetCrunch 15 では、前バージョン NetCrunch 13 のデータを引き継ぐアップグレード機能が搭載されております。アップグレードについては、製造元、弊社とも十分な検証を実施しておりますが、万が一の場合に備えてアップグレード実施前はバックアップデータの取得、NetCrunch 13 の設定の控えをあらかじめ準備していただきますようお願いいたします。また、アップグレード実施後には、NetCrunch 13 との設定比較を実施いただきますようお願いいたします。

※10.66 AdRem NetCrunch 13 の手動操作によるフルバックアップファイルの取得方法

NetCrunch 13 を NetCrunch 15 にアップグレードする方法(使用していたアトラスなどのデータを引き継ぐ)には、以下の2つの方法があります。

- ・ NetCrunch 13 を使用しているサーバーマシンに NetCrunch 15 をインストールしてアップグレードする方法
- ・ NetCrunch 13 のバックアップデータを NetCrunch 15 にインポートする方法

前者は、NetCrunch 13 がインストールされた状態のサーバーマシンに NetCrunch 15 をインストールする方法となります。

後者は、すでにサーバーマシンにインストール済みの NetCrunch 15 に対して、NetCrunch 13 のバックアップファイル(.ncb ファイル)をインポートする方法となります。

アップグレード、インポートそれぞれの方法で引き継ぎできる項目が異なります。また、インポートの場合、使用するバックアップファイルによっても引き継ぎできる項目が異なります。アップグレード、インポートによる NetCrunch 15 へのデータの引き継ぎ項目の詳細は、表 3 データ引き継ぎインポート／アップグレード比較表に一覧を記載しています。

なお、NetCrunch 15 での変更点については、リリースノートにてご確認いただけます。

注意:

アップグレード時、再起動をうながすメッセージが表示される場合があります。メッセージが表示された場合には、サーバーの再起動をご試行ください。

注意:

アップグレードおよびインポートは、バージョン 13.0.9.6773 日本語版のみサポートしています。

注意:

NetCrunch はダウングレード機能を搭載しておりません。そのため、NetCrunch 15 をインストール後、NetCrunch 13 に戻すことはできません。

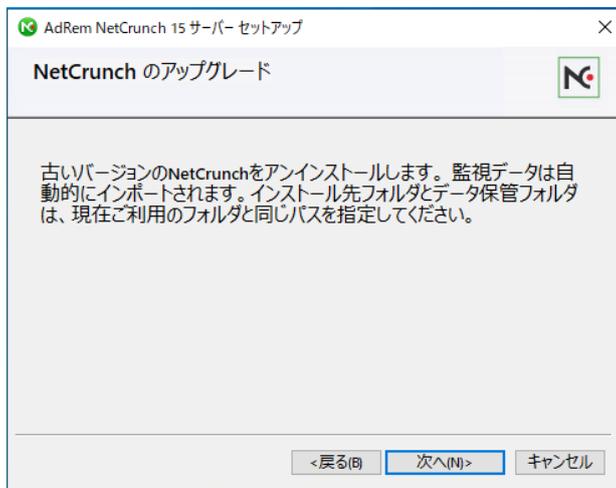
6.2 アップグレードの手順

NetCrunch サーバープログラムのアップグレードの手順:

アップグレード実施前に、NetCrunch 13 でのアトラスのバックアップファイルの取得をお願いします。

※10.66 AdRem NetCrunch 13 の手動操作によるフルバックアップファイルの取得方法

1. 「インストールファイルのダウンロード」セクションに従い、プログラムとのファイルをダウンロードします。
2. 「ライセンスの非アクティブ化」セクションに従い、ライセンスを非アクティブ化します。
3. NetCrunch 13 を停止します。コネクションブローカーなどが起動している場合は、終了します。
4. ローカルディスクに保存したインストールファイル(NC15ServerJP.exe)を右クリック→[管理者として実行]を選択し、インストールのウィザードを開始します。
5. NetCrunch 13 がインストールされている場合は、下記の画面が表示されます。



6. NetCrunch 13 のアンインストールと、NetCrunch 13 から NetCrunch 15 へのアップグレードが行われます。[次へ]をクリックし、ウィザードに従ってインストールを開始します。

注意:

下記の 2 つのフォルダは、使用していた NetCrunch 13 と同一のフォルダをご指定ください。データ保管フォルダに異なるフォルダを指定した場合、データは引き継がれませんのでご注意ください。

- a. AdRem NetCrunch 13 のインストール先フォルダ
- b. AdRem NetCrunch 13 のデータ保管フォルダ

注意:

NetCrunch 15 のインストールが開始されると、NetCrunch 13 がアンインストールされます。途中で NetCrunch 15 のインストールをキャンセルしますと、NetCrunch がインストールされていない状態となりますのでご注意ください。

注意:

NetCrunch 15 にアップグレード後、ライセンスをインストールするまで、NetCrunch は一時的に評価版(エンタープライズ)にて稼働いたします。評価版ではエンタープライズライセンスの全機能をご利用いただけますが、ライセンスのインストール後はライセンスの持つ機能のみご利用が可能です。スイート、レガシーライセンス(Premium または Premium XE)では、一部ご利用いただけない機能がごございます。ご利用いただけない機能については、「ライセンス構成」をご参照ください。

NetCrunch コンソールプログラムのアップグレードの手順:

1. 「インストールファイルのダウンロード」セクションに従い、プログラムのインストールファイルをダウンロードします。
2. 現在使用している NetCrunch コンソールを終了します。
3. タスクトレイ上から現在使用している NetCrunch コネクションブロッカーを終了します。
4. ローカルディスクに保存したインストールファイル(NC15ConsoleJP.msi)を右クリック→[管理者として実行]を選択し、インストールのウィザードを開始します。
5. ウィザードに従ってインストールを完了します。
6. コンソールを起動し、必要項目を入力し、“OK”をクリックします。
7. NetCrunch の構成が正確である場合、NetCrunch コネクションブロッカーは自動的に NetCrunch と接続し、プログラムから通知の受信が始まります。また、コンソールが開きます。

6.3 NetCrunch 15 データ引き継ぎ項目

NetCrunch 13 から NetCrunch 15 へのデータ引き継ぎインポート／アップグレードの項目を表に示します。インポートの場合、使用するバックアップファイルによって、引継ぎできる項目が異なります。バックアップファイルを、選択バックアップにて作成した場合は「選」の項目を、フルバックアップにて作成した場合は「フ」の項目をご確認ください。

表 2 データ引き継ぎインポート／アップグレード比較表

(選: インポート(選択バックアップ)、フ: インポート(フルバックアップ)、ア: アップグレード)

	項目	選	フ	ア	補足
1	mib.dat (追加コンパイルした MIB 定義)	○	○	○	-
2	MIB フィルター	×	×	○	-
3	仮想パフォーマンスカウンタ	○	○	○	-
4	監視依存関係	×	×	×	-
5	ユーザープロフィール	○	○	○	-
6	SNMP プロフィール	○	○	○	-
7	Web アクセス権	○	○	○	-
8	ノードの設定	○	○	○	-
9	マッププロパティ	○	○	○	-
10	アトラスプロパティ	○	○	○	-
11	SNMP ビュー	○	○	○	-
12	アトラスマップ (各種マップの構成)	○	○	○	-
13	マップレイアウト	○	○	○	-
14	イベント定義	○	○	○	-
15	イベントログフィルター	○	○	○	-
16	アクションの定義	○	○	○	-
17	アクション割り当て (メッセージ変換フォーマットの割り当て)	△	△	△	アラートメッセージ形式の割り当てについては、引き継ぐことができません。
18	アラートメッセージ形式	○	○	○	-
19	レポート	○	○	○	-
20	監視データ (イベントログ、トレンドデータ)	○	○	○	選択バックアップの場合、イベントログとトレンドデータをバックアップファイルに含めるか選択できます。
21	アイコン	△	△	△	NC ノードのアイコンは引き継ぐことができません。
22	デバイスリスト	×	×	○	-

23	カスタムネットワークサービス定義	△	△	○	選択バックアップ、フルバックアップの場合、作成した定義は引き継ぐことができませんが、割り当て済みのノードからは削除されません。
24	カスタムフィールド	○	○	○	-
25	バックアップタスク	○	○	○	-
26	定義済みインターフェース監視	○	○	○	-
27	ツール／オプション関連	△	△	○	フルバックアップからのインポートの場合、以下の項目は引き継がれません： ・設定>コンフィグレーション>NetCrunch システム>接続

注意：

NetCrunch 13 を Active Directory 環境上にインストールしており、NetCrunch 13 を Active Directory アカウントにて稼働させていた場合、Windows エージェントレス監視の認証が自動で行われております。この場合、NetCrunch 15 へのアップグレード後に Windows エージェントレス監視の認証情報の入力が必要となります。

なお、デフォルトインストールの場合、NetCrunch 13 はローカルシステムアカウントにて稼働しております。また、NetCrunch 15 を Active Directory アカウントにて稼働させたい場合は、インストール後、Windows のサービス一覧にて「AdRem NetCrunch Server」のプロパティから変更できます。

7. AdRem NetCrunch 12 から 15 へのアップグレード

7.1 イントロダクション

NetCrunch 15 では、前バージョン NetCrunch 12 のデータを引き継ぐアップグレード機能が搭載されております。アップグレードについては、製造元、弊社とも十分な検証を実施しておりますが、万一の場合に備えてアップグレード実施前はバックアップデータの取得、NetCrunch 12 の設定の控えをあらかじめ準備していただきますようお願いいたします。また、アップグレード実施後には、NetCrunch 12 との設定比較を実施いただきますようお願いいたします。

※10.7 AdRem NetCrunch 11 の手動操作によるフルバックアップファイルの取得方法

NetCrunch 12 を NetCrunch 15 にアップグレードする方法(使用していたアトラスなどのデータを引き継ぐ)には、以下の2つの方法があります。

- ・ NetCrunch 12 を使用しているサーバーマシンに NetCrunch 15 をインストールしてアップグレードする方法
- ・ NetCrunch 12 のバックアップデータを NetCrunch 15 にインポートする方法

前者は、NetCrunch 12 がインストールされた状態のサーバーマシンに NetCrunch 15 をインストールする方法となります。

後者は、すでにサーバーマシンにインストール済みの NetCrunch 15 に対して、NetCrunch 12 のバックアップファイル(.ncb ファイル)をインポートする方法となります。

アップグレード、インポートそれぞれの方法で引き継ぎできる項目が異なります。また、インポートの場合、使用するバックアップファイルによっても引き継ぎできる項目が異なります。アップグレード、インポートによる NetCrunch 15 へのデータの引き継ぎ項目の詳細は、表 3 データ引き継ぎインポート／アップグレード比較表に一覧を記載しています。

なお、NetCrunch 15 での変更点については、リリースノートにてご確認いただけます。

注意:

アップグレード時、再起動をうながすメッセージが表示される場合があります。メッセージが表示された場合には、サーバーの再起動をご試行ください。

注意:

アップグレードおよびインポートは、バージョン 12.1.1.6459 日本語版のみサポートしています。

注意:

NetCrunch はダウングレード機能を搭載しておりません。そのため、NetCrunch 15 をインストール後、NetCrunch 12 に戻すことはできません。

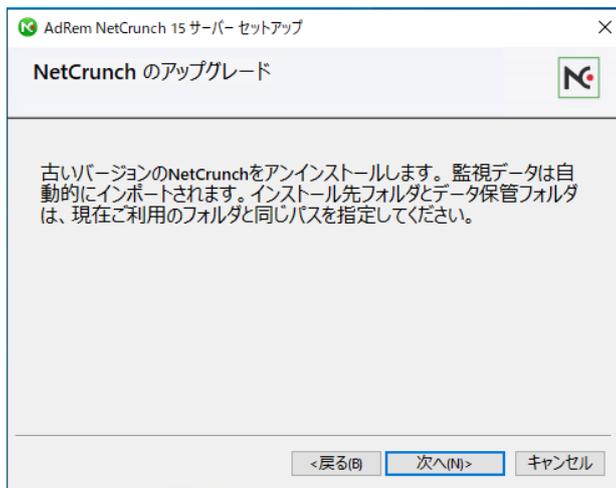
7.2 アップグレードの手順

NetCrunch サーバープログラムのアップグレードの手順:

アップグレード実施前に、NetCrunch 12 でのアトラスのバックアップファイルの取得をお願いします。

※ 10.7 AdRem NetCrunch 11 の手動操作によるフルバックアップファイルの取得方法

1. 「インストールファイルのダウンロード」セクションに従い、プログラムとのファイルをダウンロードします。
2. 「ライセンスの非アクティブ化」セクションに従い、ライセンスを非アクティブ化します。
3. NetCrunch 12 を停止します。コネクションブローカーなどが起動している場合は、終了します。
4. ローカルディスクに保存したインストールファイル(NC15ServerJP.exe)を右クリック→[管理者として実行]を選択し、インストールのウィザードを開始します。
5. NetCrunch 12 がインストールされている場合は、下記の画面が表示されます。
- 6.



7. NetCrunch 12 のアンインストールと、NetCrunch 12 から NetCrunch 15 へのアップグレードが行われます。[次へ]をクリックし、ウィザードに従ってインストールを開始します。

注意:

下記の 2 つのフォルダは、使用していた NetCrunch 12 と同一のフォルダをご指定ください。データ保管フォルダに異なるフォルダを指定した場合、データは引き継がれませんのでご注意ください。

- a. AdRem NetCrunch 12 のインストール先フォルダ
- b. AdRem NetCrunch 12 のデータ保管フォルダ

注意:

NetCrunch 15 のインストールが開始されると、NetCrunch 12 がアンインストールされます。途中で NetCrunch 15 のインストールをキャンセルしますと、NetCrunch がインストールされていない状態となりますのでご注意ください。

注意:

NetCrunch 15 にアップグレード後、ライセンスをインストールするまで、NetCrunch は一時的に評価版(エンタープライズ)にて稼働いたします。評価版ではエンタープライズライセンスの全機能をご利用いただけますが、ライセンスのインストール後はライセンスの持つ機能のみご利用が可能です。スイート、レガシーライセンス(Premium または Premium XE)では、一部ご利用いただけない機能がござります。ご利用いただけない機能については、「ライセンス構成」をご参照ください。

NetCrunch コンソールプログラムのアップグレードの手順:

1. 「インストールファイルのダウンロード」セクションに従い、プログラムのインストールファイルをダウンロードします。
2. 現在使用している NetCrunch コンソールを終了します。
3. タスクトレイ上から現在使用している NetCrunch コネクションブローカーを終了します。
4. ローカルディスクに保存したインストールファイル(NC15ConsoleJP.msi)を右クリック→[インストール]を選択し、インストールのウィザードを開始します。
5. ウィザードに従ってインストールを完了します。
6. コンソールを起動し、必要項目を入力し、“OK”をクリックします。
7. NetCrunch の構成が正確である場合、NetCrunch コネクションブローカーは自動的に NetCrunch と接続し、プログラムから通知の受信が始まります。また、コンソールが開きます。

7.3 NetCrunch 15 データ引き継ぎ項目

NetCrunch 12 から NetCrunch 15 へのデータ引き継ぎインポート／アップグレードの項目を表に示します。インポートの場合、使用するバックアップファイルによって、引継ぎできる項目が異なります。バックアップファイルを、選択バックアップにて作成した場合は「選」の項目を、フルバックアップにて作成した場合は「フ」の項目をご確認ください。

表 3 データ引き継ぎインポート／アップグレード比較表

(選: インポート(選択バックアップ)、フ: インポート(フルバックアップ)、ア: アップグレード)

	項目	選	フ	ア	補足
1	mib.dat (追加コンパイルした MIB 定義)	○	○	○	-
2	MIB フィルター	×	×	○	-
3	仮想パフォーマンスカウンタ	○	○	○	-
4	監視依存関係	×	×	×	-

5	ユーザープロフィール	○	○	○	-
6	SNMP プロフィール	○	○	○	-
7	Web アクセス権	○	○	○	-
8	ノードの設定	○	○	○	-
9	マッププロパティ	○	○	○	-
10	アトラスプロパティ	○	○	○	-
11	SNMP ビュー	○	○	○	-
12	アトラスマップ (各種マップの構成)	○	○	○	-
13	マップレイアウト	○	○	○	-
14	イベント定義	○	○	○	-
15	イベントログフィルター	○	○	○	-
16	アクションの定義	○	○	○	-
17	アクション割り当て (メッセージ変換フォーマットの割り当て)	○	○	○	-
18	アラートメッセージ形式	○	○	○	-
19	レポート	○	○	○	-
20	監視データ (イベントログ、トレンドデータ)	○	○	○	選択バックアップの場合、イベントログとトレンドデータをバックアップファイルに含めるか選択できます。
21	アイコン	△	△	△	NC ノードのアイコンは引き継ぐことができません。
22	デバイスリスト	×	○	○	-
23	カスタムネットワークサービス定義	△	○	○	選択バックアップの場合、作成した定義は引き継ぐことができませんが、割り当て済みのノードからは削除されません。
24	カスタムフィールド	○	○	○	
25	バックアップタスク	○	○	○	
26	ツール/オプション関連	△	△	○	選択バックアップ、フルバックアップからのインポートの場合、以下の項目は引き継がれません: ・設定>コンフィグレーション>NetCrunch システム>接続

注意:

NetCrunch 12 を Active Directory 環境上にインストールしており、NetCrunch 12 を Active Directory アカウントにて稼働させていた場合、Windows エージェントレス監視の認証が自動で行われております。この場合、NetCrunch 15 へのアップグレード後に Windows エージェントレス監視の認証情報の入力が必要となります。

なお、デフォルトインストールの場合、NetCrunch 12 はローカルシステムアカウントにて稼働し

ております。また、NetCrunch 15 を Active Directory アカウントにて稼働させたい場合は、インストール後、Windows のサービス一覧にて「AdRem NetCrunch Server」のプロパティから変更できます。

8. AdRem NetCrunch 11 から 15 へのアップグレード

8.1 イントロダクション

NetCrunch 15 では、前バージョン NetCrunch 11 のデータを引き継ぐアップグレード機能が搭載されております。アップグレードについては、製造元、弊社とも十分な検証を実施しておりますが、万一の場合に備えてアップグレード実施前はバックアップデータの取得、NetCrunch 11 の設定の控えをあらかじめ準備していただきますようお願いいたします。また、アップグレード実施後には、NetCrunch 11 との設定比較を実施いただきますようお願いいたします。

※ 10.8 AdRem NetCrunch 11 の手動操作によるフルバックアップファイルの取得方法

NetCrunch 11 を NetCrunch 15 にアップグレードする方法（使用していたアトラスなどのデータを引き継ぐ）には、以下の2つの方法があります。

- ・ NetCrunch 11 を使用しているサーバーマシンに NetCrunch 15 をインストールしてアップグレードする方法
- ・ NetCrunch 11 のバックアップデータを NetCrunch 15 にインポートする方法

前者は、NetCrunch 11 がインストールされた状態のサーバーマシンに NetCrunch 15 をインストールする方法となります。

後者は、すでにサーバーマシンにインストール済みの NetCrunch 15 に対して、NetCrunch 11 のバックアップファイル(.ncb ファイル)をインポートする方法となります。

アップグレード、インポートそれぞれの方法で引き継ぎできる項目が異なります。また、インポートの場合、使用するバックアップファイルによっても引き継ぎできる項目が異なります。アップグレード、インポートによる NetCrunch 15 へのデータの引き継ぎ項目の詳細は、表 3 データ引き継ぎインポート／アップグレード比較表に一覧を記載しています。

なお、NetCrunch 15 での変更点については、リリースノートにてご確認いただけます。

注意:

アップグレード時、再起動をうながすメッセージが表示される場合があります。メッセージが表示された場合には、サーバーの再起動をご試行ください。

注意:

アップグレードおよびインポートは、バージョン 11.0.12.5414 日本語版のみサポートしていません。

注意:

NetCrunch はダウングレード機能を搭載しておりません。そのため、NetCrunch 15 をインストール後、NetCrunch 11 に戻すことはできません。

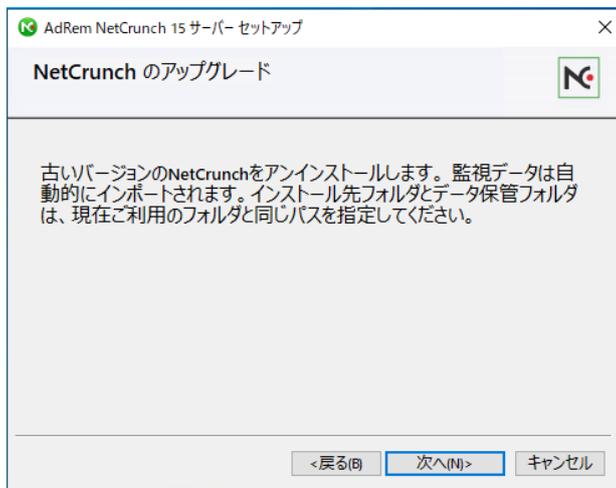
8.2 アップグレードの手順

NetCrunch サーバープログラムのアップグレードの手順:

アップグレード実施前に、NetCrunch 11 でのアトラスのバックアップファイルの取得をお願いします。

※10.8 AdRem NetCrunch 11 の手動操作によるフルバックアップファイルの取得方法

8. 「インストールファイルのダウンロード」セクションに従い、プログラムとのファイルをダウンロードします。
9. 「ライセンスの非アクティブ化」セクションに従い、ライセンスを非アクティブ化します。
10. NetCrunch 11 を停止します。コネクションブローカーなどが起動している場合は、終了します。
11. ローカルディスクに保存したインストールファイル(NC15ServerJP.exe)を右クリック→[管理者として実行]を選択し、インストールのウィザードを開始します。
12. NetCrunch 11 がインストールされている場合は、下記の画面が表示されます。



13. NetCrunch 11 のアンインストールと、NetCrunch 11 から NetCrunch 15 へのアップグレードが行われます。[次へ]をクリックし、ウィザードに従ってインストールを開始します。

注意:

下記の 2 つのフォルダは、使用していた NetCrunch 11 と同一のフォルダをご指定ください。データ保管フォルダに異なるフォルダを指定した場合、データは引き継がれませんのでご注意ください。

- a. AdRem NetCrunch 11 のインストール先フォルダ
- b. AdRem NetCrunch 11 のデータ保管フォルダ

注意:

NetCrunch 15 のインストールが開始されると、NetCrunch 11 がアンインストールされます。途中で NetCrunch 15 のインストールをキャンセルしますと、NetCrunch がインストールされていない状態となりますのでご注意ください。

注意:

NetCrunch 15 にアップグレード後、ライセンスをインストールするまで、NetCrunch は一時的に評価版(エンタープライズ)にて稼働いたします。評価版ではエンタープライズライセンスの全機能をご利用いただけますが、ライセンスのインストール後はライセンスの持つ機能のみご利用が可能です。スイート、レガシーライセンス(Premium または Premium XE)では、一部ご利用いただけない機能がござります。ご利用いただけない機能については、「ライセンス構成」をご参照ください。

NetCrunch コンソールプログラムのアップグレードの手順:

8. 「インストールファイルのダウンロード」セクションに従い、プログラムのインストールファイルをダウンロードします。
9. 現在使用している NetCrunch コンソールを終了します。
10. タスクトレイ上から現在使用している NetCrunch コネクションブローカーを終了します。
11. ローカルディスクに保存したインストールファイル(NC15ConsoleJP.msi)を右クリック→[インストール]を選択し、インストールのウィザードを開始します。
12. ウィザードに従ってインストールを完了します。
13. コンソールを起動し、必要項目を入力し、“OK”をクリックします。
14. NetCrunch の構成が正確である場合、NetCrunch コネクションブローカーは自動的に NetCrunch と接続し、プログラムから通知の受信が始まります。また、コンソールが開きます。

8.3 NetCrunch 15 データ引き継ぎ項目

NetCrunch 11 から NetCrunch 15 へのデータ引き継ぎインポート／アップグレードの項目を表に示します。インポートの場合、使用するバックアップファイルによって、引継ぎできる項目が異なります。バックアップファイルを、選択バックアップにて作成した場合は「選」の項目を、フルバックアップにて作成した場合は「フ」の項目をご確認ください。

表 4 データ引き継ぎインポート／アップグレード比較表

(選: インポート(選択バックアップ)、フ: インポート(フルバックアップ)、ア: アップグレード)

	項目	選	フ	ア	補足
1	mib.dat (追加コンパイルした MIB 定義)	○	○	○	-
2	MIB フィルター	×	×	○	-
3	仮想パフォーマンスカウンタ	○	○	○	-
4	監視依存関係	×	×	×	-

5	ユーザープロフィール	○	○	○	-
6	SNMP プロフィール	○	○	○	-
7	Web アクセス権	○	○	○	-
8	ノードの設定	○	○	○	認証情報を設定している場合、選択バックアップでは引き継ぐことができません。
9	マッププロパティ	○	○	○	-
10	アトラスプロパティ	○	○	○	-
11	SNMP ビュー	×	×	×	-
12	アトラスマップ (各種マップの構成)	△	△	△	バージョン 11 以前で作成したパフォーマンスビューは引き継ぐことができません。
13	マップレイアウト	×	×	×	バージョン 11 以前で作成したパフォーマンスビューは引き継ぐことができません。
14	イベント定義	○	○	○	-
15	イベントログフィルター	○	○	○	-
16	アクションの定義	○	○	○	-
17	アクション割り当て (メッセージ変換フォーマットの割り当て)	○	○	○	-
18	アラートメッセージ形式	○	○	○	-
19	レポート	○	○	○	-
20	監視データ (イベントログ、トレンドデータ)	○	○	○	選択バックアップの場合、イベントログとトレンドデータをバックアップファイルに含めるか選択できます。
21	アイコン	△	△	△	NC ノードのアイコンは引き継ぐことができません。
22	デバイスリスト	×	×	○	-
23	カスタムネットワークサービス定義	△	△	○	選択バックアップの場合、作成した定義は引き継ぐことができませんが、割り当て済みのノードからは削除されません。
24	カスタムフィールド	○	○	○	
25	バックアップタスク	×	×	○	
26	ツール/オプション関連	△	△	△	フルバックアップからのインポートの場合、以下の項目は引き継がれません: ・設定>コンフィグレーション>NetCrunch システム>接続 全ての方法で以下の項目が削除されています ・マップのアイコン以外の各項目

注意:

NetCrunch 11 を Active Directory 環境上にインストールしており、NetCrunch 11 を Active Directory アカウントにて稼働させていた場合、Windows エージェントレス監視の認証が自動で行われております。この場合、NetCrunch 15 へのアップグレード後に Windows エージェントレス監視の認証情報の入力が必要となります。

なお、デフォルトインストールの場合、NetCrunch 11 はローカルシステムアカウントにて稼働しております。また、NetCrunch 15 を Active Directory アカウントにて稼働させたい場合は、インストール後、Windows のサービス一覧にて「AdRem NetCrunch Server」のプロパティから変更できます。

9. AdRem NetCrunch 15 のマイナーバージョンアップ

9.1 イントロダクション

使用している NetCrunch 15 のアンインストールを行い、最新バージョンをインストールすることで、マイナーバージョンアップをすることができます。NetCrunch 15 をアンインストール後もこれまでのデータは残されますので、最新バージョンにデータを引き継ぐことができます。

注意:

NetCrunch 15 のアンインストール時に、プログラムのインストール先フォルダは削除されます。インストール先フォルダとデータ保管フォルダが同じフォルダを使用している場合、NetCrunch 15 のアンインストール時にデータ保管フォルダも削除されるため、データの引き継ぎは行えません。その場合には、アトラスのバックアップファイルをご利用ください。

注意:

最新バージョンにて使用したアトラスは、過去のバージョンでは使用できなくなります。過去のバージョンに戻すことはできませんのでご注意ください。

注意:

マイナーバージョンアップ時、システムが再起動をうながすメッセージが表示される場合があります。

9.2 マイナーバージョンアップの手順

NetCrunch サーバープログラムのマイナーバージョンアップの手順:

マイナーバージョンアップ実施前に、アトラスのバックアップファイルの取得をお願いします。

1. 「インストールファイルのダウンロード」セクションに従い、プログラムのインストールファイルをダウンロードします。
2. NetCrunch コンソールおよびコネクションブローカーを終了します。
3. 現在使用している NetCrunch サーバーを終了します。
※ Windows のスタートメニューなどから[NetCrunch サーバーの停止]をクリックします。
4. ステップ1. にてダウンロードしたインストールファイルを右クリック→[管理者として実行]を選択し、インストールのウィザードを開始します。
※ すでにインストールされているプログラムは、自動的にアンインストールされます。
5. インストールウィザードに従って、インストールを行います。インストール方法は、「NetCrunch サーバープログラムのインストール」セクションと同様となりますが、下記の2つのフォルダは、使用していた NetCrunch と同一のフォルダをご指定ください。データ

保管フォルダに異なるフォルダを指定した場合、データは引き継がれませんのでご注意ください。

- a. AdRem NetCrunch 15 のインストール先フォルダ
- b. AdRem NetCrunch 15 のデータ保管フォルダ

NetCrunch コンソールプログラムのマイナーバージョンアップの手順:

1. 「インストールファイルのダウンロード」セクションに従い、プログラムのインストールファイルをダウンロードします。
2. 現在使用している NetCrunch コンソールを終了します。
3. タスクトレイ上から現在使用している NetCrunch コネクションブロッカーを終了します。
4. ステップ1. にてダウンロードしましたインストールファイルを右クリック→[管理者として実行]を選択し、インストールのウィザードを開始します。
※ すでにインストールされているプログラムは、自動的にアンインストールされます。
5. インストールウィザードに従って、インストールを行います。インストール方法は、「NetCrunch コンソールプログラムのインストール」セクションと同様となりますが、下記のフォルダは、使用していた NetCrunch と同一のフォルダをご指定願います。
 - a. AdRem NetCrunch 15 のインストール先フォルダ

注意:

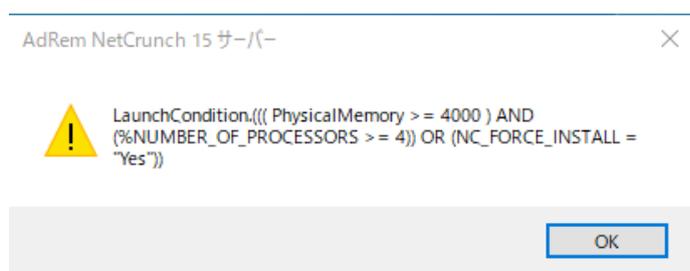
NetCrunch コンソールは、接続先となる NetCrunch サーバーと同一のバージョンをご利用ください。

10. その他

10.1 仮想マシン上へのインストールの注意

NetCrunch サーバーは仮想環境でも問題なく稼働しますが、サーバーとしてのパフォーマンス上の問題がでる可能性があります。仮想マシン上で利用する場合は、少なくとも 4 コアプロセッサと 4GB の物理メモリが必要です。また他の仮想マシンの影響を受けにくい環境で利用するように、ご注意ください。

4 コアプロセッサと 4GB の物理メモリを持たない仮想マシンの場合、以下のメッセージが表示されます。最低システム要件に満たない場合、インストールすることができません。



10.2 Admin のパスワードのリセット

コンソールでの接続の際には、ユーザーとパスワードによる認証が必要です。ローカル (NetCrunch 搭載サーバー上) のコンソールの場合は、ユーザーに Admin を使用します。Admin のパスワードが分からない場合、nccli.exe を使用してパスワードをリセットすることができます。nccli.exe は、NetCrunch のインストールフォルダ内に用意されています。

以下に手順を記載します。

1. NetCrunch 搭載サーバーのコマンドプロンプトにて、以下のコマンドを実行します。
nccli.exe reset-admin-password
2. コンソールを起動すると、ユーザー名とパスワードの入力画面が表示されます。ユーザー名に Admin、パスワードは空欄に設定の上、[OK]をクリックします。
3. [パスワードの変更]ウィンドウにて Admin のパスワードを設定の上、[OK]をクリックします。

10.3 評価版について

NetCrunch のソフトウェア上でライセンスを登録するまでは、評価版として機能します。

正規版と評価版のインストーラソフトウェアは同一のものであるため、ライセンス登録までは一旦評価版としてインストールされます。ライセンス登録により、監視設定や監視データを含めて正規版に移行されます。

注意:

評価版ライセンスが必要な場合、以下の情報を記載の上、japan@adremsoft.com までお問い合わせください。製造元での処理が必要となるため、処理が完了するまで時間がかかる場合がございます。あらかじめご了承ください。

- エンドユーザーの企業名または団体名（英語名を含む）
- エンドユーザーの担当者名（英語名を含む）
- 登録しているメールアドレス

10.4 AdRem NetCrunch 15 の手動操作によるフルバックアップファイルの取得方法

1. NetCrunch のメインメニュー→「[≡] (ハンバーガーボタン)」→[メンテナンス]→[バックアップ]をクリックします。
2. 新しく表示された[バックアップ]画面に表示されたメニューから[データを選択してフォルダにバックアップファイルを保存]をクリックします。
3. 新しく表示された[バックアップ]画面にて、
 - ・ [バックアップファイル名]欄に任意のフォルダパス、ファイル名を指定
 - ・ [バックアップタイプ]欄に[データを別のマシンに移行するための完全バックアップ]を選択画面右下の[OK]をクリックします。

※ 本操作で取得いただけるバックアップファイル(拡張子:ncb)を安全な任意の場所に保持保存します。

10.5 AdRem NetCrunch 14 の手動操作によるフルバックアップファイルの取得方法

4. コンソールメニュー→[NetCrunch]→[メンテナンス]→[バックアップ]をクリックします。
5. 新しく表示された[バックアップ]画面に表示されたメニューから[データを選択してフォルダにバックアップファイルを保存]をクリックします。
6. 新しく表示された[バックアップ]画面にて、
 - ・ [バックアップファイル名]欄に任意のフォルダパス、ファイル名を指定
 - ・ [バックアップタイプ]欄に[データを別のマシンに移行するための完全バックアップ]を選択画面右下の[OK]をクリックします。

※ 本操作で取得いただけるバックアップファイル(拡張子:ncb)を安全な任意の場所に保持保存します。

10.6 AdRem NetCrunch 13 の手動操作によるフルバックアップファイルの取得方法

1. コンソールメニュー→[NetCrunch]→[メンテナンス]→[バックアップ]をクリックします。
2. 新しく表示された[バックアップ]画面に表示されたメニューから[データを選択してフォルダにバックアップファイルを保存]をクリックします。
3. 新しく表示された[バックアップ]画面にて、
 - ・ [バックアップファイル名]欄に任意のフォルダパス、ファイル名を指定
 - ・ [バックアップタイプ]欄に[他のマシンにデータを移行するためのフルバックアップ]を選択
 画面右下の[OK]をクリックします。

※ 本操作で取得いただけるバックアップファイル(拡張子:ncb)を安全な任意の場所に保持保存します。

10.7 AdRem NetCrunch 12 の手動操作によるフルバックアップファイルの取得方法

1. コンソールメニュー→[NetCrunch]→[メンテナンス]→[バックアップ]をクリックします。
2. 新しく表示された[バックアップ]画面に表示されたメニューから[データを選択してフォルダにバックアップファイルを保存]をクリックします。
3. 新しく表示された[バックアップ]画面にて、
 - ・ [バックアップファイル名]欄に任意のフォルダパス、ファイル名を指定
 - ・ [バックアップタイプ]欄に[他のマシンにデータを移行するためのフルバックアップ]を選択
 画面右下の[OK]をクリックします。

※ 本操作で取得いただけるバックアップファイル(拡張子:ncb)を安全な任意の場所に保持保存します。

10.8 AdRem NetCrunch 11 の手動操作によるフルバックアップファイルの取得方法

1. コンソールメニュー→[アトラス]→[メンテナンス]→[バックアップ]をクリックします。
2. 新しく表示された[バックアップ]画面に表示されたメニューから[データを選択してフォルダにバックアップファイルを保存]をクリックします。
3. 新しく表示された[バックアップ]画面にて、
 - ・ [バックアップファイル名]欄に任意のフォルダパス、ファイル名を指定

・ [バックアップタイプ]欄に[他のマシンにデータを移行するためのフルバックアップ]を選択
画面右下の[OK]をクリックします。

※ 本操作で取得いただけるバックアップファイル(拡張子:ncb)を安全な任意の場所に保持保存します。

11. AdRem Software 使用許諾

本ソフトウェアをご使用になる前に、本使用許諾契約の条項をよくお読みください。

本使用許諾合意書を含むアドレム NetCrunch のプログラム(以下、本ソフトウェアと称する)は、NetCrunch サーバーと NetCrunch コンソールより構成されており、アドレム・ソフトウェア社もしくは、承認された使用許諾者により所有され、著作権法によって保護されています。

アドレムはお客様が本使用許諾契約に規定する条件全てに同意することを前提に本ソフトウェアの使用を許諾します。本ソフトウェアの使用に関するライセンス契約はお客様が購入されたライセンス(プログラムライセンス、リモートアクセス・ライセンス、およびアドオンとして購入されたライセンス類)を含みます。

ライセンス使用者は本ソフトウェアが監視するコンピュータネットワークの所有者でなくてはならない。本ライセンスは、他者にサービスを提供するために本ソフトウェアの使用を認可するものではない。ライセンス使用者は本ソフトウェアを使ったネットワーク管理/監視を他者へアウトソーシングすることは可能だが、その場合アドレムの文書による同意が必要となる。他者が本ソフトウェアを使用することに同意することは、該当他者へライセンスを移行し、また、ライセンスを使用することを認可したことにはならない。

本ソフトウェアがNFR(非再販)ライセンスとして提供されたものである場合、使用はデモおよび試験に限定される。NFRとして提供されたライセンスには、アップデート(改訂)、アップグレードもしくはクロスグレードの提供は適用されない。また、バウチャーやクーポンにより購入することも出来ない。

本ソフトウェアが評価版として提供されたものである場合、使用はデモ、試験および評価に限定される。評価版は商業用目的に使用することは出来ない。また再販もしくは移行することも出来ない。

本使用許諾契約に付属した別紙により規定されていない限り、本ソフトウェアの使用に関するお客様の権利および義務は次のとおりです。

許諾事項:

1. NetCrunch サーバーを一台の管理ステーションにインストールして使用すること。企業ライセンスを所有している場合、使用者が購入した企業ライセンスに規定されている数よりも多い管理ステーションでNetCrunchサーバーを使うことは出来ない。
2. NetCrunch コンソールを複数のコンピュータにインストールすること。
3. NetCrunch コンソールを同時に使用できるコンピュータは購入したリモートアクセス・ライセンス数以下の数であること。

4. アドレムに対し書面で通知した上で本ソフトウェアを第三者(法人を含む)に永久的に譲渡すること。ただし、お客様が本ソフトウェアのコピーを保有せず、譲受人が本使用許諾契約に同意した場合に限ります。

禁止事項:

1. 本ソフトウェアの一部または全部を問わず、譲渡、貸与、またはリースをすること。
2. リバースエンジニアリング、逆コンパイル、逆アセンブル、修正、翻訳、本ソフトウェアのソースコードを発見しようとするいかなる試み、本ソフトウェアからの模倣的製品の作成。
3. お客様が本ソフトウェアをアップグレードしたのちに、従前のバージョンを使用すること。ただしユーザーが選択した慈善団体へ従来バージョンを寄付する場合は例外とする。これをアドレムが認めるためには、寄付の受益側が譲渡された本ソフトウェアのエンドユーザである旨を表明する文書を、ユーザーがアドレムへ提出する必要がある。これ以外の場合、従前のバージョンのコピーはすべて破棄するものとする。

アップグレードおよびサポートのサブスクリプション

統合、クラウド関連機能、お客様のポータルサイトへのライセンスの格納のようなライセンスファイル管理に関連した機能、ライセンスのアクティベーションもしくは非アクティベート処理、および同組織内において他のユーザーへライセンスの移動などを含むアドレムの NetCrunch サービスの特定機能は、アップグレードおよびサポートのサブスクリプションが有効であるという条件を前提にしたものであることを、お客様は理解し、合意したものとします。

アップグレードおよびサポートの料金、期間、保守更新に関する条件は、別途

<https://www.adremsoft.com/general-terms/>において提示されており、変更されることがあります。

お客様がアドレムの NetCrunch を継続して使用することは、上記の条件を承認し、後続の条件の変更を承諾したと意味することとなります。

技術サポート

技術サポートはメンテナンス・サービスに契約されている本ソフトウェアを持つユーザーに与えられます。提供される技術サポートは次のとおりです。

1. 最新バージョンのサポート
2. 保守契約有効期間内の、電話、電子メールでの質問、相談
3. 保守契約有効期間内にアドレムが提供する本ソフトウェアの最新バージョンへのアップグレード

アドレムは本ソフトウェアに関する技術サービスをお客様に提供するものとします。ただし、アドレムが可能な範囲でこのサービスを提供する権利を留保します。特に、報告を受けた各問題に対してサポートサービスの範囲内で解決方法を提供できることを保証するものではありません。

アドレムが技術サポートを提供するのは、本ソフトウェアが開発されたオペレーティングシステムの制御下、条件に基づいて使用された場合にのみとする。

責任の制限

アドレムは、本ソフトウェアが瑕疵なく、また途切れることなく作動するというお客様の要求を保証するものではない。いかなる場合でも、アドレムは、本ソフトウェアを使用したことから発生する、もしくは本ソフトウェアが使用できない事から発生する損失および利益逸失もしくは偶発的、間接的な損失を含む損害に対し責任を持つことはない。これは、アドレムもしくはアドレムが認可した代理店が損害の可能性に関して通知されていた場合でも同様である。

法律が合意範囲の責任の制限もしくは排除を予見しない国においては、アドレムの責任は、該当国の法律により認められた最大範囲での責任の制限、もしくは排除を適用するものとする。

本ソフトウェアは、危険な環境においてもフェールセーフなパフォーマンスが要求される原子力施設、航空機の飛行、通信、コントロール・システム、生命保持機器、兵器システムにおけるオンライン管理システム、もしくは、本ソフトウェアに発生し得る障害が死や怪我もしくは深刻な物理的もしくは環境上の障害を引き起こす可能性のあるシステムを対象として設計、使用もしくは配布を想定して設計されたものでも、製造されたものでもありません。

優先条項

本使用許諾書と他者との条件の間で対立が発生した場合、本ソフトウェアのライセンス、使用制限、知的所有権およびサポートにおける義務については、NetCrunch の使用許諾書に規定される条件が優先適用されるものとする。

管轄法

NetCrunch ソフトウェア・ライセンスに適用される法律は、アドレムが登記している事務所の所在地法とする。

その他

上記の条件は、アドレムがお客様へ与えたその他の権利を制限、除外しません。本使用許諾契約は本契約書の別紙もしくは、お客様とアドレムが確認した書面によってのみ修正することができます。本使用許諾契約の各項が違法、無効、法的拘束力がない場合、各項目は本契約から除外するものとみなします。ただし、残りの項目の正当性と履行に影響がないものとします。本使用許諾契約に関するご質問は、sales@adremsoft.com までお問い合わせください。